

市内企業100社訪問・100社支援結果

1. 事業概要

市内製造業事業所を直接訪問し、補助金等の情報提供や企業ニーズの聞き取りを行うことで、各企業の実情に応じた支援を行う。

平成25～27年度は100社訪問として、市内製造業事業所との繋がりを中心として活動し、平成28年度以降は100社訪問で培われた企業とのパイプを活かし、個別のニーズへの対応を行っている。

2. 支援企業数

	H25	H26	H27	H28	H29	合計
訪問企業数	100	100	101	103	100	504
(内、新規訪問)	65	75	78	9	5	232

3. 100社訪問の成果

支援ニーズごとの支援件数

	販路開拓	補助金	技術開発	人材確保	資金調達	その他	合計
H25	10	1	1	0	0	6	18
H26	19	8	4	1	1	3	36
H27	2	16	4	3	2	4	31
H28	22	34	2	15	1	11	85
H29	15	14	10	31	0	22	92

4. 事業主の主な声（景況感等・行政に対する要望など）

（コメント・業種名・訪問月）

平成25年度

- 電気代が月100万円ほどかかる。製品代の約半分を、原材料費とエネルギー費が占める。原材料費が、円安により、平成25年7月1日から1トン当たり1万円値上がりした。（鋳物 7月）

- デフレが進んでいたため高級素材を使った商品の需要が減っており売り上げは10年前の半分弱となった。地域資源を生かした小ロットOEMの受注が増えている。(食品製造販売、開発 8月)
- 東日本大震災後の復興特需で大型トラックが品薄になるほど売れている。その効果で同社もトラック向け天蓋付荷台の受注が捌けないほどに入っている。(トラックボディー架装 10月)
- 従業員の中に若くて積極的なものがおらず、新たな事業にチャレンジする風土と余裕がない。(自動車関連部品加工 10月)
- 自動車部品の試作は、平成25年度はメーカーの注文が低調である。中国進出の計画があったが、現地の情勢が不安定となり中止した。(精密機械加工 11月)
- 自動車関連の受注がこなしきれないほど入ってきており、自社だけで対応しきれず、協力会社と連携して当たっている。(精密金型の設計加工 12月)
- 新工場を立ち上げたが、リーマンショックにより利益を生んでいない。この4～5年で売り上げは10%低下していたが、平成25年秋ぐらいから潮目が変わったようで、オーダーが増えている(プラスチック成型 1月)
- 10年程前から海外展開をしているが、原発事故で海外の売上減った。平成25年から緩やかに回復してきている。(化粧品開発、製造販売 2月)
- 最新のNC複合旋盤では作れない一点物の加工を職人技で対応できるのが強みだが、受注が減っており、1個数十円の量産品案件も受けるが利益なく、このままでは廃業も考えねばならない。(金属加工 2月)
- かつての半分の受注数となっている。以前は国内企業から多く受注していたが、今は、価格面で中国に取られている。(金型設計・制作 2月)

平成26年度

- 半導体業界を中心に需要が低迷していたが、最近では自動車メーカー等、大手企業の設備投資意欲が回復しており、自社の業績も回復傾向にある。また、新たな引き合いも増えている状態。(X線検査装置開発 5月)
- 低価格・短納期対応に注力し顧客開拓にも努めている。アベノミクスの効果か景気回復を実感。増税の影響による売り上げの落ち込みは特にならない。(プラスチック切削加工業 5月)
- 最近、自社の製品の多くは大手メーカーの海外工場で導入されている。国内景気は多少、持ち直し安定傾向にある。(自動制御盤・配電盤設計製作 5月)
- コスト重視の案件ではなく、複合機メーカー等と素材の選定などから課題に取り組むスタイルで受注を維持。従業員の6割を占める女性のために社内に託児所を設ける等、働きやすい環境整備にも注力。(精密プラスチック射出成型 7月)
- 若者の定着が難しい。溶接部門で技術者が人手不足となっている。(金属加工 8月)
- リーマンショック以降、致命的ではないものの売り上げは落ち込み、戻ってはいない。電気料金の値上がりがかさらに追い打ちをかけており厳しい状態。(精密プラスチック部品成型加工等 10月)

- 直近ではアベノミクスの影響により受注が増えており人手不足の状態となっているが、なかなか希望条件に合う人が集まらず困っている。(プリント基板実装、電子機器組立 10月)
- 観光客の増加等により見かけの売上は上がっているが(平成23年比で1.5倍ほど)、エネルギーコストや円安による資材価格の上昇により、利益増にはなっていない。同業で廃業する企業もある。(各種繊維製品(浴衣・シーツ・タオル等のリース 11月)
- エネルギー代高騰による負担増加の影響は大きいですが、輸出事業であるため円安により徐々に良化している。(超精密プラスチック金型製造及び成形品製造 11月)
- 平成25年は太陽光関連の発注が好調だったが、平成26年に入り注文がストップ。今年は2割程度売り上げが落ちると思われる。(精密板金加工 11月)
- リーマンショックにより売り上げが落ち込み、8人いた従業員が現在は5名。最近は対応しきれないほど仕事が増えているが、いつまで続くのか分からないので人を増やすことには慎重である。(精密金属部品加工等 1月)

平成27年度

- 東日本大震災までは上向きであった。また、消費税増税前の駆け込み需要がわずかにあったが、最近では景気は良くない。東京・福岡での案件がウエイトを占めている。東京はオリンピック効果で、2～3年は活況が続くと聞いている。(別注陳列什器企画製造 6月)
- 景気は波があり、安定した受注が少ないため、情勢に左右されやすい。(金属加工 6月)
- 独自の技術力で、景気の変動には特に左右されず、業績は堅調。(プラスチック成形、各種電子制御基盤生産 7月)
- 業界特有の労働環境の厳しさから、若手の確保、育成に苦慮している。年々売り上げは減少し、さらに原料等の高騰も重なり厳しい状況だが、技術で付加価値をつけるように努めている。(繊維加工 7月)
- ここ10年は波があり繁忙期は同業者と協力して対応しているが、景気は良くない。(各種樹脂の加工・溶接 7月)
- 材料の高騰等、景気の影響は実感する。例年3月は車関係で安定しているが、4・5月で落ち込み、6・7月で持ち直している。(自動車関連部材の製造 7月)
- 業界として景気変動の影響を受けることがある。業況も震災後から下降気味である。(金銀糸製造販売 7月)
- 近年の観光客増加により売上が増加。(菓子製造販売 10月)
- 大手企業が生産設備の無人化を急いでおり、案件過多の状況。人手不足でハローワークに求人を依頼しているが、若い世代で電機関連の仕事を志望する人が減っている。(生産設備の設計・施工 12月)
- ここ数年あまり良くなかったが、今年に関しては好調。(看板等製造 12月)
- クールビズなどの影響もあり、年々マーケットが縮小。繁忙期と閑散期の波があり常時雇用することが難しい。(服飾小物縫製加工 3月)

平成28年度

- 東日本大震災まではマレーシアやシンガポールでの売り上げが好調であったが、震災後海外での売り上げが止まる。未だ震災前の水準には戻っておらず苦戦しているが、2014年からは緩やかに回復傾向にある。(基礎化粧品・医薬部外品製造販売 4月)
- 近年の商品の小ロット化により単価が下落基調。災害(台風の影響)による材料高騰を懸念。(和菓子の製造販売 8月)
- 国内製造を行っている携帯電話メーカー向けの防水パッキン製造を受託しているが、全体的な海外移管やメーカーの勢力図変遷により売上激減。
- アベノミクスの影響もあり好調。リーマンショック以前よりも良い。(工作機械部品製造 12月)

平成29年度

- 東京オリンピックに向けてセキュリティ関連のセンサー部材の注文が増えている。仕事はいくらでもあるが人が足りない。(ステンレス加工 7月)
- 業績好調で現工場が手狭になり、貸工場の利用を検討。宇治市でも工業用地の確保について要望。(切削加工 11月)